

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	東海財務局長
【提出日】	平成25年10月10日
【四半期会計期間】	第46期第2四半期（自 平成25年6月1日 至 平成25年8月31日）
【会社名】	株式会社柿安本店
【英訳名】	Kakiyasu Honten Co.,Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 赤塚 保正
【本店の所在の場所】	三重県桑名市吉之丸8番地
【電話番号】	(0594)23-5500(代表)
【事務連絡者氏名】	専務取締役 赤塚 義弘
【最寄りの連絡場所】	三重県桑名市吉之丸8番地
【電話番号】	(0594)23-5500(代表)
【事務連絡者氏名】	専務取締役 赤塚 義弘
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第45期 第2四半期連結 累計期間	第46期 第2四半期連結 累計期間	第45期
会計期間	自平成24年 3月1日 至平成24年 8月31日	自平成25年 3月1日 至平成25年 8月31日	自平成24年 3月1日 至平成25年 2月28日
売上高(千円)	20,697,551	20,281,829	42,684,999
経常利益(千円)	1,185,464	1,081,908	2,677,283
四半期(当期)純利益(千円)	605,680	563,612	1,309,222
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	598,604	569,376	1,322,622
純資産額(千円)	12,409,744	13,267,369	13,133,762
総資産額(千円)	18,008,660	18,825,613	18,047,434
1株当たり四半期(当期)純利 益金額(円)	48.66	45.28	105.18
潜在株式調整後1株当たり四半 期(当期)純利益金額(円)	-	-	-
自己資本比率(%)	68.9	70.5	72.8
営業活動による キャッシュ・フロー(千円)	582,325	584,596	2,298,140
投資活動による キャッシュ・フロー(千円)	477,996	336,053	784,654
財務活動による キャッシュ・フロー(千円)	632,660	547,716	749,421
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高(千円)	5,281,973	6,275,196	6,574,370

回次	第45期 第2四半期連結 会計期間	第46期 第2四半期連結 会計期間
会計期間	自平成24年 6月1日 至平成24年 8月31日	自平成25年 6月1日 至平成25年 8月31日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	25.33	24.41

- (注) 1. 当社は、四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。

2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間における、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容の変更と主要な関係会社の異動は、概ね次のとおりであります。

< 精肉事業 >

主な事業内容及び主要な関係会社の異動はありません。

< 惣菜事業 >

主な事業内容及び主要な関係会社の異動はありません。

< 食品事業 >

主な事業内容及び主要な関係会社の異動はありません。

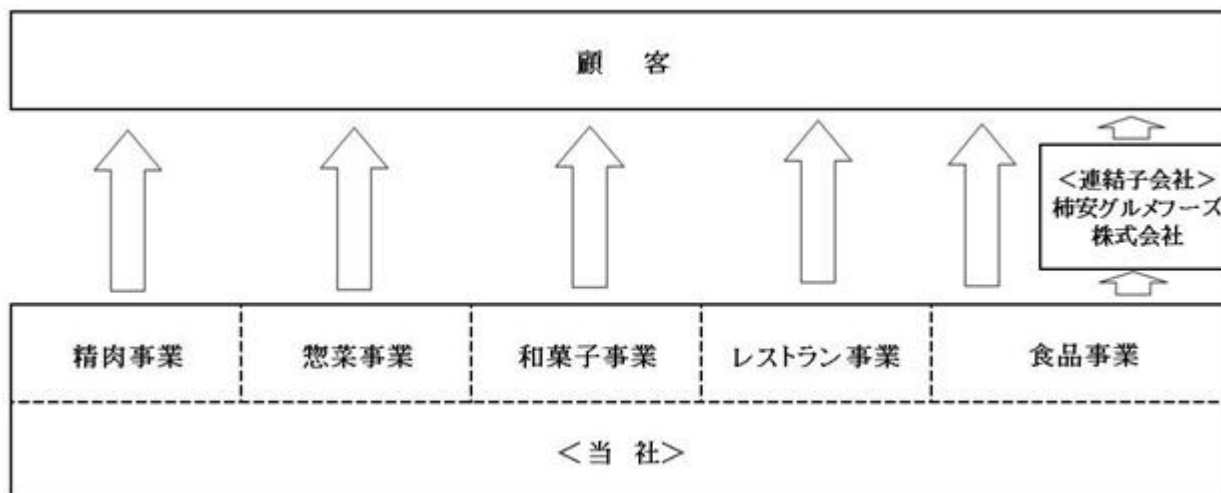
< 和菓子事業 >

柿安グルメフーズ株式会社における和菓子事業は、吸収分割により平成25年3月1日より、当社の直営といたしております。

< レストラン事業 >

主な事業内容及び主要な関係会社の異動はありません。

これによる、平成25年3月1日以降の事業の系統図は次のとおりであります。



第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクに重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において、当社グループが判断したものであります。

(1)業績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新政権による経済・金融政策への期待感から円高是正や株値上昇など景況感は徐々に明るさを増してまいりました。しかしながら一方で、電気料金の値上げや海外経済の減速が懸念されるなど先行きは不透明な状況で推移いたしました。

食関連業界におきましても、消費マインドに改善の兆しは見られるものの、雇用・所得環境の改善が見られない中、物価上昇も予想されるなど個人消費の改善には至らず、引き続き厳しい状況で推移いたしました。

このような環境の中、当社グループは、「牛めし」「おはぎ」「牛小間切れ」をはじめとする主力定番商品の刷新やオリジナルブランド「プレミアムあく〜」の育成など、商品力向上とともに事業別販促を強化してまいりました。

出退店につきましては、百貨店への精肉・惣菜店舗の出店を着実に進めるとともに大型ショッピングセンター中心に15店の和菓子店舗「口福堂」を出店いたしました。また、3店の改装、4店の閉鎖を行いました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は20,281,829千円（前年同期比2.0%減）、営業利益は1,069,994千円（同8.9%減）、経常利益は1,081,908千円（同8.7%減）、四半期純利益は563,612千円（同6.9%減）となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

(a) 精肉事業

主力定番商品の黒毛和牛小間切れをよりおいしく魅力ある『黒毛和牛こだわり小間切れ』に全面刷新するとともに『松阪牛小間切れ』や健康志向に合わせた『赤身さっぱり小間切れ』の新商品投入により品揃え強化を図りました。

また、「夏得スタミナ祭」企画でのバーベキューセット・焼肉セットや「夏は賢く時短クッキング！」企画でのハンバーグ・味付商品などにより集客の強化を図りました。

以上の結果、当事業の売上高は6,963,529千円（前年同期比0.2%増）、セグメント利益は537,205千円（同11.9%増）となりました。

(b) 惣菜事業

「大海老レモンマヨ」や「初夏の彩り弁当」をはじめ、レモンがテーマの夏商品、復刻版メニューの投入による商品の刷新や、期間限定商品「牛めし夏味(山葵)」、メンチカツ・ヒレカツなどの揚物企画により常に店頭を変化させてまいりました。

また、横浜エリアへのダイニング部門の初進出となるそごう横浜ダイニングの出店を含め惣菜店舗計4店の出店と2店の改装を行いました。

この結果、当事業の売上高は6,076,266千円（前年同期比3.4%減）、セグメント利益は550,983千円（同31.3%減）となりました。

(c) 食品事業

松阪牛の精肉ギフトやハンバーグギフトの新商品をお中元ギフト商戦に投入するとともに、少量食べ切りサイズの詰め合わせによる父の日プレゼント、帰省土産などパーソナルギフト分野の強化を図りました。

この結果、当事業の売上高は1,596,874千円（前年同期比5.5%減）、セグメント利益は133,786千円（同3.0%増）となりました。

(d) 和菓子事業

夏の涼菓（水まんじゅう、水ようかん、冷やしカップデザート等）の品揃え強化とともに主力定番商品「名物おはぎ」の使用もち米を北海道産はくちょうもちブレンドに刷新し、さらにおいしく仕上げるなど、商品力の向上に努めました。

また、盆明けとともに新商品「スイートマロンどら焼」をはじめ、栗がテーマの秋商品への入替を進め、季節の先取りを行ないました。

以上の結果、当事業の売上高は2,440,831千円（前年同期比14.2%増）、セグメント利益は151,455千円（同27.4%増）となりました。

(e) レストラン事業

「ローストビーフと彩り野菜のミルフィーユ仕立て」や「ブリットと大海老マヨ（クリーミープレミアム）」などディナータイム限定の日替り特別メニューや揚げたて天ぷらのテーブルサービス企画をビュッフェ部門に投入するとともに、グリル部門への夏商品「炭火焼ハンバーグ&スペアリブ（夏旨大根のおろしポン酢かけ）やステーキメニューの導入による品揃え強化を図りました。

この結果、当事業の売上高は3,191,433千円（前年同期比11.3%減）、セグメント利益は279,652千円（同21.1%増）となりました。

(f) その他

柿安グループの店舗を設けていない百貨店・量販店等において、柿安総合催事を実施いたしました。

この結果、当事業の売上高は12,894千円（前年同期比59.5%減）、セグメント損失は586千円（前年同期は111千円のセグメント利益）となりました。

(2) 財政状態の分析

当第2四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末に比べ778,178千円増加し、18,825,613千円となりました。主な要因は、現金及び預金299,173千円の減少がありましたが、売掛金941,217千円及び新規出店に伴う有形固定資産116,971千円の増加によるものであります。

負債合計は、前連結会計年度末に比べ644,571千円増加し、5,558,243千円となりました。主な要因は、借入金の返済に伴う長期借入金85,000千円の減少がありましたが、買掛金241,106千円及び未払費用219,863千円の増加によるものであります。

純資産合計は、前連結会計年度末に比べ133,606千円増加し、13,267,369千円となりました。主な要因は、利益剰余金127,990千円の増加によるものであります。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第 2 四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ299,173千円減少し、6,275,196千円となりました。

当第 2 四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動による資金の増加は、584,596千円(前年同四半期は、582,325千円の増加)となりました。

収入の主な内訳は、税金等調整前四半期純利益及び減価償却費等であり、支出の主な内訳は、売上債権の増加等があります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動による資金の減少は、336,053千円(前年同四半期は、477,996千円の減少)となりました。

これは、主に有形固定資産の取得による支出等であります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動による資金の減少は、547,716千円(前年同四半期は、632,660千円の減少)となりました。

これは、主に配当金の支払及び長期借入金の返済による支出等であります。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第 2 四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更等はありません。

(5) 研究開発活動

該当事項はありません。

(6) 経営成績に重要な影響を与える要因及び経営戦略の現状と見通し

当第 2 四半期連結累計期間において、経営成績に重要な影響を与える要因及び経営戦略の現状と見通しに重要な変更等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	46,300,800
計	46,300,800

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成25年8月31日)	提出日現在発行数(株) (平成25年10月10日)	上場金融商品取引所名又は登 録認可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	12,446,700	12,446,700	東京証券取引所 JASDAQ(スタンダード)	単元株式数100株
計	12,446,700	12,446,700	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成25年6月1日～ 平成25年8月31日	-	12,446,700	-	1,269,238	-	1,074,763

(6) 【大株主の状況】

平成25年8月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合 (%)
赤塚 保	東京都港区	1,046	8.4
株式会社赤塚興産	三重県桑名市江場1523-1	852	6.8
赤塚 安則	三重県桑名市	829	6.7
赤塚 勝子	三重県桑名市	354	2.8
赤塚 正子	東京都港区	343	2.8
株式会社百五銀行	三重県津市岩田21-27	273	2.2
東京海上日動火災保険株式会社	東京都千代田区丸の内1丁目2-1	260	2.1
柿安社員持株会	三重県桑名市吉之丸8番地	254	2.0
赤塚 保正	東京都品川区	157	1.3
赤塚 弘	三重県桑名市	150	1.2
計	-	4,522	36.3

(7)【議決権の状況】

【発行済株式】

平成25年8月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 400	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 12,444,300	124,443	-
単元未満株式	普通株式 2,000	-	-
発行済株式総数	12,446,700	-	-
総株主の議決権	-	124,443	-

(注) 「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が400株(議決権の数4個)含まれております。

【自己株式等】

平成25年8月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社柿安本店	三重県桑名市吉之丸8番地	400	-	400	0.0
計	-	400	-	400	0.0

2【役員状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動はありません。

なお、平成25年9月1日付で次のとおり役職の異動を行っております。

役職の異動

新役職名	旧役職名	氏名	異動年月日
取締役社長(代表取締役)兼 営業本部長	取締役社長(代表取締役)	赤塚 保正	平成25年9月1日
常務取締役 営業副本部長	常務取締役 第一営業本部長	佐藤 重男	平成25年9月1日
常務取締役 営業副本部長	常務取締役 第二営業本部長	樋尾 清明	平成25年9月1日

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成25年6月1日から平成25年8月31日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成25年3月1日から平成25年8月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、東陽監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年2月28日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年8月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	7,174,370	6,875,196
受取手形及び売掛金	2,400,573	3,341,791
商品及び製品	208,484	223,196
仕掛品	122,794	148,038
原材料及び貯蔵品	181,365	194,040
繰延税金資産	204,392	212,808
その他	40,788	98,148
貸倒引当金	219	307
流動資産合計	10,332,550	11,092,913
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	3,203,231	3,265,327
土地	2,282,565	2,282,565
その他(純額)	620,210	675,086
有形固定資産合計	6,106,007	6,222,979
無形固定資産		
その他	118,024	95,467
無形固定資産合計	118,024	95,467
投資その他の資産		
投資有価証券	188,194	198,495
繰延税金資産	274,718	224,462
差入保証金	838,271	810,960
その他	189,668	180,333
投資その他の資産合計	1,490,852	1,414,252
固定資産合計	7,714,884	7,732,699
資産合計	18,047,434	18,825,613
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,151,762	1,392,869
未払金	395,259	467,601
未払法人税等	428,745	469,880
未払費用	877,336	1,097,199
賞与引当金	361,018	369,575
役員賞与引当金	37,950	18,975
その他	382,506	570,708
流動負債合計	3,634,578	4,386,810
固定負債		
長期借入金	702,500	617,500

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年2月28日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年8月31日)
退職給付引当金	13,048	15,023
資産除去債務	465,736	437,504
その他	97,807	101,405
固定負債合計	1,279,093	1,171,433
負債合計	4,913,672	5,558,243
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,269,238	1,269,238
資本剰余金	1,074,763	1,074,763
利益剰余金	10,793,104	10,921,094
自己株式	401	549
株主資本合計	13,136,704	13,264,546
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,941	2,822
その他の包括利益累計額合計	2,941	2,822
純資産合計	13,133,762	13,267,369
負債純資産合計	18,047,434	18,825,613

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成24年3月1日 至 平成24年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年3月1日 至 平成25年8月31日)
売上高	20,697,551	20,281,829
売上原価	11,153,655	10,707,337
売上総利益	9,543,896	9,574,492
販売費及び一般管理費	8,369,272	8,504,497
営業利益	1,174,624	1,069,994
営業外収益		
受取利息	2,033	1,485
受取配当金	1,610	1,655
協賛金収入	2,065	1,227
保険解約返戻金	-	5,805
その他	17,372	10,983
営業外収益合計	23,082	21,157
営業外費用		
支払利息	7,975	6,217
その他	4,266	3,026
営業外費用合計	12,242	9,243
経常利益	1,185,464	1,081,908
特別損失		
固定資産除売却損	17,977	4,389
減損損失	42,101	28,229
その他	270	-
特別損失合計	60,348	32,619
税金等調整前四半期純利益	1,125,115	1,049,289
法人税、住民税及び事業税	450,540	446,978
法人税等調整額	68,894	38,698
法人税等合計	519,434	485,676
少数株主損益調整前四半期純利益	605,680	563,612
四半期純利益	605,680	563,612

【四半期連結包括利益計算書】
【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年3月1日 至平成24年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年3月1日 至平成25年8月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	605,680	563,612
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	7,076	5,764
その他の包括利益合計	7,076	5,764
四半期包括利益	598,604	569,376
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	598,604	569,376
少数株主に係る四半期包括利益	-	-

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年3月1日 至平成24年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年3月1日 至平成25年8月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	1,125,115	1,049,289
減価償却費	311,023	299,314
減損損失	42,101	28,229
賞与引当金の増減額(は減少)	4,176	8,556
役員賞与引当金の増減額(は減少)	16,500	18,975
退職給付引当金の増減額(は減少)	604	1,974
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	95,806	-
貸倒引当金の増減額(は減少)	4,541	88
受取利息及び受取配当金	3,644	3,140
支払利息	7,975	6,217
有形固定資産除却損	16,848	3,573
有形固定資産売却損益(は益)	1,128	816
売上債権の増減額(は増加)	611,378	939,940
たな卸資産の増減額(は増加)	57,050	52,631
仕入債務の増減額(は減少)	218,982	241,106
未払金の増減額(は減少)	120,020	2,242
未払消費税等の増減額(は減少)	41,145	60,170
その他	202,381	269,820
小計	1,229,375	956,711
利息及び配当金の受取額	3,623	3,212
利息の支払額	7,672	6,212
法人税等の支払額	643,000	369,115
営業活動によるキャッシュ・フロー	582,325	584,596
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	600,000	600,000
定期預金の払戻による収入	600,000	600,000
有形固定資産の取得による支出	424,974	316,601
有形固定資産の売却による収入	840	190
投資有価証券の取得による支出	1,420	1,394
長期貸付金の回収による収入	1,380	-
差入保証金の差入による支出	21,006	28,290
差入保証金の回収による収入	2,483	9,982
その他	35,297	59
投資活動によるキャッシュ・フロー	477,996	336,053

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年3月1日 至平成24年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年3月1日 至平成25年8月31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	195,000	110,000
自己株式の取得による支出	28	148
配当金の支払額	435,622	435,621
その他	2,008	1,946
財務活動によるキャッシュ・フロー	632,660	547,716
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	528,331	299,173
現金及び現金同等物の期首残高	5,810,305	6,574,370
現金及び現金同等物の四半期末残高	5,281,973	6,275,196

【会計方針の変更等】

当第2四半期連結累計期間 (自平成25年3月1日 至平成25年8月31日)
(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更) 当社及び連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成25年3月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。 この変更による当第2四半期連結累計期間の損益に与える影響は軽微であります。

【注記事項】

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費の主要な費用及び金額

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年3月1日 至平成24年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年3月1日 至平成25年8月31日)
店舗家賃	1,799,132千円	1,783,836千円
給料及び手当	3,767,421	3,826,111
賞与引当金繰入額	295,368	308,283
役員賞与引当金繰入額	16,500	18,975
役員退職慰労引当金繰入額	2,614	-

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年3月1日 至平成24年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年3月1日 至平成25年8月31日)
現金及び預金勘定	5,881,973千円	6,875,196千円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	600,000	600,000
現金及び現金同等物	5,281,973	6,275,196

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自平成24年3月1日 至平成24年8月31日)

配当に関する事項

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年5月18日 定時株主総会	普通株式	435,622	35	平成24年2月29日	平成24年5月21日	利益剰余金

当第2四半期連結累計期間(自平成25年3月1日 至平成25年8月31日)

配当に関する事項

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年5月30日 定時株主総会	普通株式	435,621	35	平成25年2月28日	平成25年5月31日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間 (自平成24年3月1日至平成24年8月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント						その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	精肉事業	惣菜事業	食品事業	和菓子 事業	レストラン 事業	計				
売上高										
外部顧客への 売上高	6,949,949	6,290,596	1,690,385	2,138,021	3,596,728	20,665,681	31,870	20,697,551	-	20,697,551
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	657,337	10,640	163,091	61,668	11,812	904,550	-	904,550	904,550	-
計	7,607,287	6,301,237	1,853,476	2,199,689	3,608,541	21,570,232	31,870	21,602,102	904,550	20,697,551
セグメント利 益	480,026	801,801	129,856	118,879	230,928	1,761,492	111	1,761,604	586,980	1,174,624

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、全社催事等であります。

2. セグメント利益の調整額 586,980千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用 607,329千円及びその他調整額20,349千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「惣菜事業」、「和菓子事業」及び「レストラン事業」セグメントにおいて、店舗設備の減損損失をそれぞれ5,003千円、12,024千円、25,074千円計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間において42,101千円であります。

当第2四半期連結累計期間（自平成25年3月1日至平成25年8月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント						その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	精肉事業	惣菜事業	食品事業	和菓子 事業	レストラン 事業	計				
売上高										
外部顧客への 売上高	6,963,529	6,076,266	1,596,874	2,440,831	3,191,433	20,268,935	12,894	20,281,829	-	20,281,829
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	740,733	8,941	181,191	78,065	13,117	1,022,049	-	1,022,049	1,022,049	-
計	7,704,263	6,085,208	1,778,065	2,518,896	3,204,550	21,290,984	12,894	21,303,878	1,022,049	20,281,829
セグメント利 益又は損失 ()	537,205	550,983	133,786	151,455	279,652	1,653,083	586	1,652,497	582,502	1,069,994

- (注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、全社催事等であります。
2. セグメント利益又は損失()の調整額 582,502千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用 601,090千円及びその他調整額18,588千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
3. セグメント利益又は損失()は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「惣菜事業」セグメント及び「全社資産」において、店舗設備及び東京本部施設移設統合に伴う減損損失をそれぞれ5,495千円、22,733千円計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間において28,229千円であります。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年3月1日 至平成24年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年3月1日 至平成25年8月31日)
1株当たり四半期純利益金額	48円66銭	45円28銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	605,680	563,612
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	605,680	563,612
普通株式の期中平均株式数(千株)	12,446	12,446

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年10月3日

株式会社柿安本店

取締役会 御中

東陽監査法人

指定社員
業務執行社員 公認会計士 谷本 勝則 印

指定社員
業務執行社員 公認会計士 高津 清英 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社柿安本店の平成25年3月1日から平成26年2月28日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成25年6月1日から平成25年8月31日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成25年3月1日から平成25年8月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社柿安本店及び連結子会社の平成25年8月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. 四半期連結財務諸表の範囲には、XBRLデータ自体は含まれておりません。